

日銀神戸
支店長の
視点

大関雄資氏



6月の終わりに日銀神戸支店長に就任した。その前は松江支店長として、島根県松江市で2年間暮らした。松江支店は島根県に加えて鳥取県も所管するので、旧分国でいえば因幡、伯耆、出雲、石見、隠岐の五国からなる広大な地域が担当だ。

対して新任地の神戸支店が所管するのは兵庫県1県。ただし旧分国では摂津、播磨、丹波、但馬、淡路とやはり五国からなるうえ、人口や経済の規模は格段に大きい。また、日本海側だけではなく大阪湾や瀬戸内海の沿岸も含むから、地理的にも文化的にも一段と多様性に富むエリアを担当することになる。

うれしいことに、前任地の五国と新任地の五国は、因幡

五国から五国へつなぐ第55代

と但馬を通じてつながっている。山陰両県の企業からはしばしば、製品をまずは陸路で神戸に送り、そこから海外に輸出するとの話をお聞かせいただいた。その神戸の地で引き続き金融経済調査の任にあたることに、縁を感じる。

さらにうれしいのは、日本酒発祥の地の一つとされる島根県に引き続き、同様に発祥の地でもあり今や全国シェア約3割の生産量を誇る「聖地」兵庫県で暮らせることだ。

島根ですっかり日本酒に魅了され、今や毎日の晩酌は欠かさない。本業の金融経済調査に加え、この方面でも当地で学ぶべきことは多く、一段と忙しくなりそうだ。

ちなみに筆者は、松江支店長としても神戸支店長としても第55代にあたる。前任地も五国で新任地も五国と5が並び、どうやら55は筆者にとつてラッキーナンバーのようだ。僥倖が続くよう、これから深掘りする兵庫県の銘酒も、徹底的に精米歩合55%にこだわってみよう。